



千葉市美術館拡張リニューアルオープン・開館25周年記念 宮島達男 クロニクル 1995－2020

Special Exhibition to Celebrate 25 Years and the
Grand Reopening of Chiba City Museum of Art
Tatsuo Miyajima: Chronicle 1995－2020

会 期 2020年9月19日(土)－12月13日(日)

開館時間 10:00－18:00(金・土曜日は20:00まで) ※入場受付は閉館の30分前まで

休 室 日 10月5日(月)、10月19日(月)、11月2日(月)、11月16日(月)、12月7日(月)

観 覧 料 一般1,200円(960円)、大学生700円(560円)、小・中学生、高校生無料

☆ナイトミュージアム割引:金・土曜日の18時以降は観覧料半額

☆10月18日(日)は「市民の日」につき観覧無料

※障害者手帳をお持ちの方とその介護者1名は無料

※()内は前売り、市内在住65歳以上の方の料金

※前売券は千葉市美術館ミュージアムショップ(9月18日まで)、ローソンチケット(Lコード:31988)、セブンイレブン(セブンチケット)、
千葉都市モノレール「千葉みなと駅」「千葉駅」「都賀駅」「千城台駅」の窓口にて9月18日まで販売(9月19日以降は当日券販売)

※本展チケットで、5階常設展示室「千葉市美術館コレクション名品選2020」もご覧いただけます。

主 催 千葉市美術館

協 力 Akio Nagasawa Gallery, SCAI THE BATHHOUSE

助 成 芸術文化振興基金 

※館内にて新型コロナウイルス感染拡大防止対策を行っております。

・体調のすぐれない方の来館はご遠慮ください。・咳エチケット、マスク着用、手洗い・手指の消毒の徹底にご協力ください。

※内容やイベントが変更になる場合があります。最新の状況はホームページをご確認ください。

概要

宮島達男は、LED（発光ダイオード）のデジタル・カウンターを使用した作品で高く評価され、世界で活躍する現代美術作家です。1980年代より宮島は、「それは変化し続ける」「それはあらゆるものと関係をつくる」「それは永遠に続く」という3つのコンセプトに基づき、これまで30ヶ国250ヶ所以上で作品を発表してきました。作品のモチーフであるデジタル数字は命の輝きをあらわし、0が表示されず1から9の変化を永遠に繰り返すことで、人間にとって普遍的な問題である「生」と「死」の循環を、見る者に想像させます。

本展は千葉市美術館の開館25周年記念として、首都圏の美術館では12年ぶりに開催される大規模な個展です。1996年の開館記念展「Tranquility—静謐」に出品された《地の天》の制作だけでなく、パフォーマンスの再開、世

界各地で参加者と協同で行われる「時の蘇生・柿の木プロジェクト」の始動など、1995年は重要な転換期にあたります。本展は1995年を起点とし、時間と空間に深く関わる作品表現の本質に、「クロニクル（年代記）」というテーマから迫ろうとする展覧会です。LED作品、パフォーマンス映像、プロジェクトを軸とする作品のヴァリエーションは、四半世紀の複層的な展開を感じさせるとともに、世界の不確定性に作家が全身全霊をかけ、身体と感性を対峙させてきた事実が伝わるはずです。

2000年代に入り、宮島は「Art in You（アートインユー）」を提唱しています。「アートはあなたの中にある」と訳され、誰もが創造性を生み出すことを信じてやまない独自の芸術思想といえます。この宮島のメッセージは、自然災害や国際紛争など、さまざまな困難に直面しても歩みを止めず努力してきた現代社会の人々に、今こそ必要とされるものかもしれません。生きることの意味、そして平和と共生の意義を、他者との開かれた対話を通して問い続けてきた宮島の豊かな世界観は、未来への新たな視座を投げかけることでしょう。



宮島達男《Counter Skin on Faces》2019/2020年
Courtesy of Akio Nagasawa Gallery Photo by Siliang Ma

宮島達男プロフィール



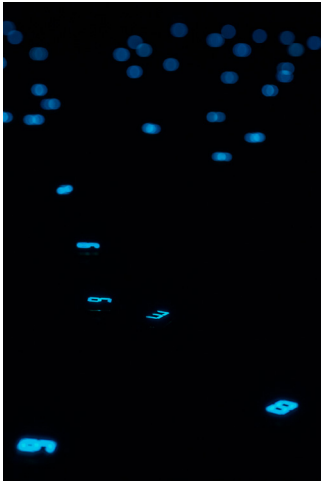
1957年東京都生まれ。東京藝術大学大学院美術研究科絵画専攻修了。1980年代より、LEDのデジタル・カウンターを用いた作品の制作を開始、1987年に3つのコンセプト「それは変化し続ける」「それはあらゆるものと関係をつくる」「それは永遠に続く」を発表。1988年「第43回ヴェネツィア・ビエンナーレ」アペルト部門で注目を集め、1999年「第48回ヴェネツィア・ビエンナーレ」など、国内外の展覧会に多数参加。「時の蘇生・柿の木プロジェクト」をはじめ、アートと社会をつなぐプロジェクトも行う。2006–2016年東北芸術工科大学副学長。2012–2016年京都造形芸術大学副学長。

本展の見どころ

- 首都圏の美術館では12年ぶりの開催となる大規模個展です。大型インスタレーション作品を含む約40点の作品を展示します。
- テーマは「クロニクル」。本展を通してLED作品、パフォーマンス、プロジェクトなど1995年から2020年までの四半世紀にわたる宮島達男の多様な展開を追うことができます。
- 宮島が近年構想してきた「不確定性」をテーマとした2020年の最新作、海外でしか発表されていなかった日本初公開の作品も多数出品されます。
- 杉本博司、李禹煥、河原温ら、千葉市美術館が所蔵する作品とコラボレーションした《Changing Time / Changing Art》を発表します。
- 自分の死ぬ年月日を想像して入力する《Deathclock》や、CGによる数字が空間を自由に飛び回る《Floating Time》など、美術館でしか体験できない作品に参加することができます。
- 25年間取り組まれてきた「時の蘇生・柿の木プロジェクト」を千葉県で初めて実施。映像作家の林勇気によるワークショップや、来年初春の植樹が決定しています。

宮島達男と《地の天》

Tatsuo Miyajima and *The Sky of the Ground*



《地の天》1996年 千葉市美術館蔵
Photo by Nobutada Omote

宮島達男は、1988年の第43回ヴェネツィア・ビエンナーレ（アペルト部門）で高い評価を得て以降、1999年の第48回ヴェネツィア・ビエンナーレをはじめ、国内外の展覧会へ多数参加している日本を代表する現代美術作家です。1995年に恩師である榎倉康二の訃報を受け、追悼の意を込め制作された《地の天》は、実用化されて間もない青色LEDを使用した大規模なインスタレーション作品であり、千葉市美術館の収蔵作品として親しまれています。

コラボレーション Collaboration

宮島は1987年に、「それは変化し続ける」「それはあらゆるものとの関係を結ぶ」「それは永遠に続く」という3つのコンセプトを発表しました。社会情勢を反映し、芸術や物理学、数学、仏教思想、東洋哲学など複数のジャンルを包含する宮島の作品は、鑑賞者とも分かちがたい関係を結びます。本展では、千葉市美術館が所蔵する絵画や写真とのコラボレーションをはじめ、展示会場だけの特別な空間が生み出されます。



所蔵作品展示作家

- 河原温
- 菅井汲
- 杉本博司
- 中西夏之
- 李禹煥

中西夏之《作品一たとえば波打ち際にてIX》1985年 千葉市美術館蔵

パフォーマンス Performance



《Counter Voice in Chinese Ink》2018/2020年 Courtesy of Akio Nagasawa Gallery
Photo by Siliang Ma

初期の活動を代表する作品は、東京藝術大学在学中の1980年代前半に、自然や街中でパフォーマンスを行った《NA. AR.》（「Nature and Artificiality（自然と人為）」の略）です。叫ぶ、寝転がるといった外部環境に対しての行為の数々は、世界と自己の関係性についての探究であったといえます。天文台で知られるイギリスのグリニッジ訪問を境に、宮島は1995年よりパフォーマンスを再開し、自身や他者の身体を用いた映像作品の発表を続けています。

「時の蘇生・柿の木プロジェクト」

“Revive Time: Kaki Tree Project”

1995年に長崎を訪れた宮島は、樹木医の海老沼正幸との出会いをきっかけに、被爆した柿の木2世の苗木を植樹する「時の蘇生・柿の木プロジェクト」を開始します。アートと社会をつなぐプロジェクトを多数行い、教育活動にも携わってきた宮島にとって、人間が本来もつ「想像力」と「創造力」は、社会の変革への大きな原動力です。千葉市美術館では、本プロジェクトに映像作家の林勇を招聘し、2021年2月には千葉県で初となる柿の木の植樹を予定しています。



「時の蘇生・柿の木プロジェクト」第48回ヴェネツィア・ビエンナーレ 1999年
©Revive Time: Kaki Tree Project

展覧会関連イベント

■「時の蘇生・柿の木プロジェクト」ワークショップ 「アニメーション作品の出演者・住人になろう!」

講師:林勇気(映像作家)

8月29日(土)、30日(日)

5階ワークショップルームにて/定員24人(組)/

事前申込/申込締切8月12日(水)/参加無料

※応募方法・時間などの詳細はホームページにてご確認ください

※応募多数の場合は抽選となります

■講演会「四半世紀、これまでとこれから」

講師:宮島達男

10月10日(土) 14:00より(13:30開場予定)

11階講堂にて/先着80名(当日12:00より1階さや堂ホール

にて整理券配布)/聴講無料(要展覧会チケット)

■担当学芸員によるギャラリートーク

10月14日(水) 14:00より

※混雑時には中止する場合があります。

■アーティストトーク「脳科学とアートの出会い」

出演:宮島達男、中野信子(脳科学者)

11月3日(火・祝) 14:00より(13:30開場予定)

11階講堂にて/先着80名(当日12:00より1階さや堂ホール

にて整理券配布)/聴講無料(要展覧会チケット)

■映画上映会

「ヨーゼフ・ボイスは挑発する」

12月5日(土)、12月12日(土) 14:00より(13:30開場予定)

11階講堂にて/先着80名(当日12:00より1階さや堂ホール

にて整理券配布)/参加無料(要展覧会チケット)

■市民美術講座

「宮島達男の作品が映し出す生/死」

講師:森啓輔(当館学芸員)

11月21日(土) 14:00より(13:30開場予定)

11階講堂にて/先着80名/聴講無料

記者レクチャー・内覧会

一般公開に先駆けて報道関係の皆様を対象に、記者レクチャーおよび内覧会を行います。展覧会の見どころを出品作家である宮島達男と担当学芸員よりご説明し、その後展示室をご覧ください。

9月18日(金)/15:00~17:00/8階展示室にて

参加ご希望の方は、同封の申込書に必要事項をご記入の上、FAXまたはメールにてご連絡ください。

同時開催

「千葉市美術館コレクション名品選2020 特集 榎倉康二・宮島達男」ほか

9月8日(火) - 12月28日(月) 5階常設展示室

[休室日] 第1月曜日 [観覧料] 一般300円 大学生220円(宮島達男展で観覧の方は無料)

「つくりかけラボ01 遠藤幹子 | おはなしこうえん」

7月11日(土) - 12月13日(日) 4階子どもアトリエ

[休室日] 第1月曜日 [観覧料] 無料

次回展予告

2021年1月5日(火) - 2月28日(日) 千葉市美術館拡張リニューアルオープン・開館25周年記念 日・スロバキア/日・チェコ交流100周年
「ブラチスラバ世界絵本原画展 こんにちは!チェコとスロバキアの新しい絵本」

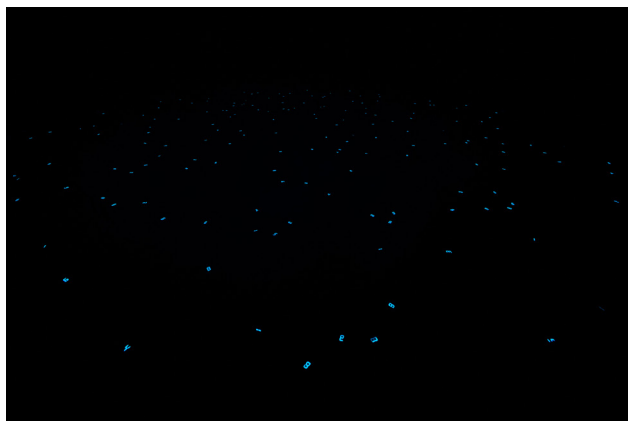
2021年1月5日(火) - 2月28日(日) 千葉市美術館拡張リニューアルオープン・開館25周年記念 川村コレクション受贈記念
「田中一村展 - 千葉市美術館所蔵全作品 -」

2021年1月5日(火) - 1月31日(日) 「千葉市美術館コレクション名品選2020」

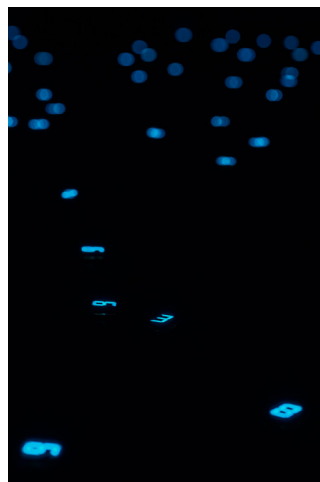
2021年1月5日(火) - 4月4日(日) 「つくりかけラボ02 志村信裕 | 影を投げる」

広報用画像一覧

展覧会広報用として作品画像をご用意しております。ぜひ、本展をご紹介しますようお願いいたします。ご紹介いただける場合は、別紙の申込書に必要事項をご記入の上、FAX にてご連絡ください。画像の使用は1回限りとし、展覧会紹介の目的にのみご使用ください。



1. 宮島達男《地の天》1996年 千葉市美術館蔵 Photo by Nobutada Omote



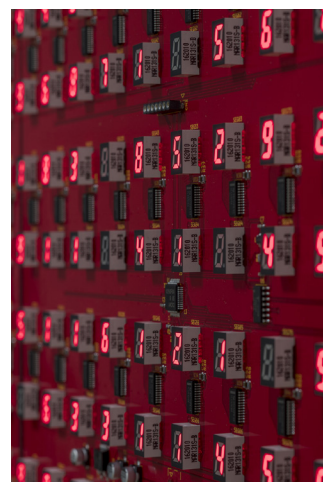
2. 宮島達男《地の天》1996年 千葉市美術館蔵 Photo by Nobutada Omote



3. 宮島達男《Counter Skin on Faces》2019/2020年
Courtesy of Akio Nagasawa Gallery Photo by Siliang Ma



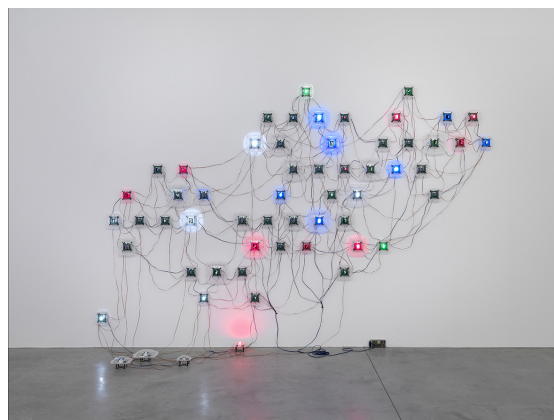
4. 宮島達男《Innumerable Life/Buddha MMD-03》2019年
Courtesy of SCAI THE BATHHOUSE Photo by Nobutada Omote



5. 宮島達男《Innumerable Life/Buddha MMD-03》(部分) 2019年
Courtesy of SCAI THE BATHHOUSE Photo by Nobutada Omote



6. 宮島達男《Counter Voice in Chinese Ink》2018/2020年
Courtesy of Akio Nagasawa Gallery Photo by Siliang Ma



7. 宮島達男《Life (le corps sans organes) - no.18》2013年
Courtesy of SCAI THE BATHHOUSE Photo by Ken Adlard

広報用画像データ・プレゼント用招待券申込書

■写真ご使用に際してのお願い

- * 作品写真の使用は、本展のご紹介をいただける場合のみとさせていただきます。
- * 写真のご利用は、1 申込について 1 回とし、使用後のデータは破棄してください。
- * 基本情報確認のため、広報担当まで一度校正紙をお送りください。
- * 掲載後、広報担当まで見本誌をご送付くださいますようお願いいたします。
- * お手数ですが、招待券プレゼントの受付、発送などは、貴編集部にてお願いいたします。
原則として、掲載紙をご送付いただきました時に招待券をお送りいたします。

千葉市美術館
広報担当 磯野 行

FAX : 043-221-2316

E-mail : isono@ccma-net.jp

貴社名 :	媒体名 :
ご担当者名 :	発行予定日 :
TEL :	発行部数 :
FAX :	定価 :
Email :	掲載予定コーナー名等 :
画像到着希望日 : 月 日 時まで	画像の掲載サイズ (おおよそで結構です 例: 5cm 四方、など) :

■画像データ申込 (ご希望のデータの番号に○をつけてください。)

1. 宮島達男《地の天》1996年 千葉市美術館蔵 Photo by Nobutada Omote
2. 宮島達男《地の天》1996年 千葉市美術館蔵 Photo by Nobutada Omote
3. 宮島達男《Counter Skin on Faces》2019/2020年 Courtesy of Akio Nagasawa Gallery Photo by Siliang Ma
4. 宮島達男《Innumerable Life/Buddha MMD-03》2019年 Courtesy of SCAI THE BATHHOUSE Photo by Nobutada Omote
5. 宮島達男《Innumerable Life/Buddha MMD-03》(部分) 2019年 Courtesy of SCAI THE BATHHOUSE Photo by Nobutada Omote
6. 宮島達男《Counter Voice in Chinese Ink》2018/2020年 Courtesy of Akio Nagasawa Gallery Photo by Siliang Ma
7. 宮島達男《Life (le corps sans organes) - no.18》2013年 Courtesy of SCAI THE BATHHOUSE Photo by Ken Adlard

■「宮島達男 クロニクル 1995－2020」 プレゼント用招待券申込 (ご希望の場合はチェックをつけてください)

☐ 5 組 10 名様分 希望します。

(それ以外の枚数が必要な場合は別途ご相談ください。)

チケット送付先

ご住所 : 〒

問い合わせ先

千葉市美術館

〒 260-0013 千葉市中央区中央 3-10-8

広報担当 : 磯野 愛

Tel. 043-221-2311 (代表) / 043-221-2313 (直通)

Fax. 043-221-2316

E-mail. isono@ccma-net.jp

HP. <https://www.ccma-net.jp/>

千葉市美術館拡張リニューアルオープン・開館25周年記念
宮島達男 クロニクル 1995－2020

Special Exhibition to Celebrate 25 Years and the Grand Reopening of Chiba City Museum of Art
Tatsuo Miyajima: Chronicle 1995－2020

☐ 記者レクチャー 9月18日(金) 15:00～17:00 8階展示室にて

報道関係の皆様を対象に披露説明会および内覧会を行います。
展覧会の見どころを出品作家の宮島達男氏と担当学芸員よりご説明し、その後展示室
をご覧ください。

[タイムスケジュール(予定)]

15:00～ 担当学芸員より説明

15:10～ 出品作家宮島達男氏より説明(ツアー形式を予定)、質疑応答

16:00～17:00 自由内覧

参加ご希望の方はチェックボックスと下記項目にご記入の上、

FAX: 043-221-2316 または **E-mail: isono@ccma-net.jp**

までご返信ください。

ご芳名

ご所属

貴媒体名

お電話番号

E-mail

問い合わせ先 広報担当 磯野 愛
Tel. 043-221-2313 (直通)

千葉市美術館
〒260-0013 千葉市中央区中央3-10-8
HP. <https://www.ccma-net.jp/>